

令和5年3月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年3月23日（木）15時48分～16時10分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>NHK、読売新聞、山形新聞、YTS、YBC、河北新報、NCV

<市>市長、秘書広報課長

4 記者クラブからの質問事項

(1) マスク着用の「個人の判断」について

今月13日から、マスク着用が「個人の判断」とされました。新型コロナウイルスの新規感染者数も少なくなっておりますが、市としての見解や市民への呼びかけなどがあればお聞かせください。

(2) 地域おこし協力隊について

新年度より地域おこし協力隊の人数を大幅に増やす方針であり、そのための予算措置もなされております。地域おこし協力隊が米沢市に与える役割について、過去の実績・評価及び今後に期待することは何か、具体的にお聞かせください。

(3) 外国人観光客の誘客について

新型コロナウイルス感染者の減少や人々の捉え方の変化も相まって、外国人観光客も徐々に増えてきていると感じます。米沢市が外国人誘客のために行っている施策や戦略についてお聞かせください。また、周辺自治体との連携についてもお聞かせください。

(4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度3月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は3点ありました。

まず1点目は、「マスク着用の「個人の判断」について、今月13日から、マスク着用

が「個人の判断」とされました。新型コロナの新規感染者数も少なくなっておりますが、市としての見解や市民への呼びかけなどがあればお聞かせください。」という内容です。

今月13日から、マスクの着用について個人の判断が基本となりましたが、感染対策が不要になるわけではありませんので、引き続き3密の回避、人と人との距離の確保、こまめな手洗い・消毒、換気といった基本的な感染対策はしていかなければなりません。マスクの着用は個人の判断ですので、個人の意思に反してマスクの着脱が強いられることがないよう、また、マスクの有無による差別や偏見が生じることがないようにご理解とご協力をお願いします。

新年度を迎えるにあたり、進学や就職、また桜の時期で人の動きが活発になります。感染の再拡大も懸念されますので、市民の皆さまには気を緩めることなく行動していただきたいと思えます。いずれにしても、感染拡大に繋がらないように市民の皆さまと一丸となって感染対策に取り組んでいきたいと思えます。

2点目は、「地域おこし協力隊について、新年度より地域おこし協力隊の人数を大幅に増やす方針であり、そのための予算措置もなされております。地域おこし協力隊が米沢市に与える役割について、過去の実績・評価及び今後に期待することは何か、具体的にお聞かせください。」という内容です。

役割については、そもそも地域おこし協力隊とは、隊員を自治体で受け入れ、各地域や団体等の地域住民との協働による地域おこしを通じて、地域の活性化を図るとともに、定住・定着に繋げていく国の制度です。本市においても、基本的にはこのようなことを地域おこし協力隊の役割としてお願いしています。

過去の実績・評価については、現在まで13名の協力隊員を年3～4名体制で受け入れ、各地域や団体等の地域住民との協働による地域おこし活動を通じて地域の活性化を図ってきました。任期終了後も本市に定着している隊員が9名中7名で、移住定住促進にも繋がっています。

令和2年度までは、協力隊員のスキルを活かしながら、コミュニティセンター事業を含めた各地区での活動サポート等、地域住民や学生等と協力して行うフリーミッション型隊員を主に募集していました。

令和3年度からは、特定の行政課題に対応できるスキルや経験を持つ人材を活かしたミッション型隊員も受け入れ、現在、紅花プロジェクト業務、移住定住推進業務、よねざわ昆虫館業務を行うミッション型隊員3名が活動しています。

今後に期待することについては、各課から高いスキルを持つ人材が必要との希望が多くあったことから、令和5年度は地域おこし協力隊員数を4名から11名に増員し、本市での協力隊活動の裾野を拡大し、地域活性化・移住者増に繋げていきたいと思えます。

また、地域おこし協力隊員を目指す方々は、それぞれが素晴らしいスキルや人生観をもった多様な人材です。地域の実情や特徴に合った隊員を組織横断的に配置することで、地域と隊員が化学反応を起こすように共鳴し合い、本市の新しい可能性を創発

的に生み出していくことに繋げていきたいと思えます。本市の地域資源を磨き上げていただくことはもとより、隊員自身の自己実現ができるような協力体制をとっていきます。

3点目は、「外国人観光客の誘客について、新型コロナ感染者の減少や人々の捉え方の変化も相まって、外国人観光客も徐々に増えてきていると感じます。米沢市が外国人誘客のために行っている施策や戦略についてお聞かせください。また、周辺自治体との連携についてもお聞かせください。」という内容です。

新型コロナウイルスの影響で、観光面にだいぶダメージを受けたわけですが、訪日外国人観光客について、国の水際対策の緩和が始まった昨年6月以降、昨年比では3倍以上に増加しております。令和3年は455人で、令和4年は約1,580人に増加したことから、少しずつコロナ禍前に戻りつつあるのかと思えます。2月に開催された上杉雪灯籠まつりにおいても、アジア圏の外国人観光客が多く見受けられたことから、今後、更なる増加が見込まれるものと期待しています。

また、インバウンドに対応するために、国際交流員の知見を活用した多言語ホームページの改修や、外国人向けインフルエンサーを活用した動画の作成及び配信、これまでの台湾との繋がりを活かした誘客プロモーション等を展開し、本市の認知度向上を図るための情報発信を行ってきました。今後もしっかりと情報発信をしていきたいと思えます。

昨年度策定した第4期米沢市観光振興計画では、基本方針の一つにインバウンド観光の推進を掲げています。インバウンドの主要なターゲットを台湾に設定し、各種事業を展開していくこととしておりますが、台湾現地での誘客キャンペーンについては、令和2年度から新型コロナウイルスの影響により中断しています。今後再開し、現地の関係者との交流をより一層図りながら、誘客促進に繋げていきたいと思えます。

また、コロナ禍を経て、海外旅行者の旅先に求めるものや行動様式等に大きな変化が生じていることから、台湾だけでなく本市の歴史や食等の観光コンテンツに合った新たなターゲットを検討し、より効果的に誘客を行っていくための情報収集・分析を行っていきます。

まだ正式に記者発表しておりませんが、本市を撮影場所としたアニメ制作が進んでいます。世界にインターネット配信されるようですので、そういったものも活用しながら、インバウンド対策として取り組んでいきたいと思えます。

周辺自治体との連携については、県や福島市、会津圏域をはじめとする近隣自治体と連携したプロモーションや、置賜3市5町で構成されるおきたま観光協議会の事業等とも連携し、広域エリアでの知名度の向上を図っていきたいと思えます。既に会津圏域、福島県とは様々な交流を進めておりますが、さらに推進していかなければなりません。また、おきたま観光協議会においても、DMOとの連携も含めて、インバウンド対策に取り組んでいく必要があると思えます。新型コロナウイルスと一定程度寄り添いながら、観光やインバウンド対策に取り組んでいきます。

事前にいただいた質問に対する回答は以上です。

○記者

1点目のマスク着用の「個人の判断」について伺います。これから桜が咲き花見のシーズンになりますが、去年は飲酒、飲食の自粛があったと思います。今年はどうのようにするお考えですか。

○市長

これから花見のシーズンになり、その後、米沢上杉まつりも開催されます。今のところ規制をかけるという考えはありませんが、基本的な感染対策はしていかなければならないと思います。

○記者

2点目の地域おこし協力隊について伺います。増員の理由として、フリーミッション型からミッション型への転換が大きな要因だと思いますが、それを今年度行った理由を教えてください。

○市長

これまで、各地で地域おこし協力隊の皆さまが活躍してきました。それぞれ特技を活かして地域の中で活躍したい、また、自己実現をしたいという思いがあっても、フリーミッション型だと、ややもすると行政のお手伝いになってしまうのではという懸念がありました。目的を持って地域の活性化を進めたいという思いもありますし、本市には様々な地域資源もあります。そういったものに興味のある方に本市に来ていただき、これから取り組もうとしている学生との連携やDMOに関する様々な知恵を頂いて、しっかりと作り上げていきたいと思います。ミッション型の地域おこし協力隊を増員し共に取り組んでいくことができれば、協力隊員の皆さまの自己実現にも繋がっていくと思います。そのような思いから増員しました。

○記者

3点目の外国人観光客の誘客について伺います。米沢市を撮影場所とするアニメについて、話せる範囲で内容を教えてください。

○市長

撮影場所は本市が中心ですが、県内の本市以外での撮影もあるようです。テーマは雪で、若者の恋愛模様を描いた作品だということまではお聞きしています。1回目の撮影は既に終わっていますが、2回目の撮影には間もなく入るのか既に入っているのか、正式には発表できないということで、私ももどかしさを感じています。せっかくの機会ですので、楽しみに待ちたいと思います。おそらく令和6年度内の放送で、その半年前には正式発表するということですので、今年の夏頃には正式発表があると思います。世界中にネット配信されるということで、しっかりと活用しながら、インバウンド対策にも繋げていきたいと思います。クールジャパン戦略の中でも取り込まれ、日本のアニメは世界的にも評価を頂いておりますので、インバウンドに繋がってほしいなと思います。

○記者

詳細がわかり次第、少しずつでも教えていただきたいです。

○市長

はい。これは我々だけで温めておくものでもありませんので、マスコミの皆さまにも共有してPRしていただければありがたいと思いますので、しっかりと対応します。

○記者

その他について伺います。ご自身で定められた2期8年の任期について、改めて思いを聞かせてください。

○市長

2期8年という条例を定めておりますので、その考えに変わりはありません。

○記者

12月の任期満了で、お辞めになるということでしょうか。

○市長

そういうことになると思います。

○記者

現在2名の方が立候補を表明していますが、支援のスタンスはお決まりでしょうか。

○市長

現在、誰を支援するかということは考えていません。時期がきたら対応させていただくことになると思います。

○記者

県議員選挙について、支援のスタンスはお決まりでしょうか。

○市長

県議員選挙について市長として発言するのは避けたいと思います。選挙とは一般的に有権者の選択ということが大きな意味だと思いますので、市民の皆さまの選択肢が出たのかなという思いです。

○記者

県議選について伺います。市長ご自身が県議時代、3回の選挙で2回が無投票ということでした。改めて県議選はどのような訴えに注目していますか。

○市長

県議員の選挙であり、県政の中での方針ですので、私から何かを申し上げることはしません。市長としての立場で何か言うことがあるとすれば、米沢をもっともっと良くしてもらいたい、そういった政策がどのくらい行われているか、それしかないと思います。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度3月の定例記者会見を終了いたします。